

## 令和2年度第1回アーバンデザインセミナー実績報告書

### 1. 開催日時

令和2年7月3日（金） 17時30分～19時00分

参加人数：UDCBKでの視聴：4名、オンライン：9名 = 計13名

※オンライン会議システムとUDCBKのオープンスペースでの視聴を併用

### 2. テーマ

「情報発信とまちづくり」

- 新型コロナウイルス感染症の関係で、家や地元のまちに留まる時間が多くなり、改めて地元のまちを感じる機会が増えた。
- まちについての気付きを得るヒントを情報発信の第一人者からシェアしてもらうことで、市民一人一人にまちを見つめなおす視点を獲得してもらう。
- また、得られた気付きを他者に伝え合うことで、まちに対する見方に広がりを与え、様々な視点からのまちづくりを考える意識醸成の機会を提供する。

### 3. 話題提供者

#### (1) 南部 敏之（「草津ファン☆プロ」副代表）

- 報道写真学科で写真を学び、フジフィルム・ファッション写真スタジオを経験。
- 2014年、草津川跡地公園市民活動「くさねっこ」に参加。
- 情報発信グループ代表として市民活動部会に参加。
- Facebook、Instagram、YouTubeで情報発信。
- 2015年、草津市の情報発信「草津ファン☆プロ」に参加。

#### (2) 草津市広報課

- 草津市のまちの魅力を発信している部署。
- 市民レポーター養成講座なども実施し、情報発信のすそ野を広げている。

### 4. 話題の概要

#### (1) 「草津ファン☆プロ」について

- 淡海ネットワークセンター主催の地域プロデューサー養成おうみ未来塾13期生が中心となって設立された団体。
- これまで草津市広報課と協働で市政情報の発信（SNS広報くさつ）や広報活動のPR（楽しいみんなの広報活動）を行ってきた。
- FacebookやYouTubeなどのSNSで、情報発信をしている。その他、草津宿場まつりのリアルタイム発信やサンヤレ踊りの動画のデータベース化なども行っている。

- UDCBK とは、UDCBK の発足当時からつながりがあり、アーバンデザインスクールやアーバンデザインセミナーの取材を行い、YouTube で動画配信している。
- UDCBK の YouTube は、ステイホーム期間には、改めて見直す機会が増え、アーカイブとしての価値が発揮された。
- 現在は、新型コロナウイルス感染症の影響で、イベントの発信等はできないが、草津市が発信している情報をシェアし、拡散するように SNS を活用している。
- 大雨による災害などがあつたとき、分かる範囲で、草津線などの交通情報の提供も SNS を通じて行っている。



## (2) 南部氏によるレクチャー

ア. 「まちを知るヒント」としてまずは、「変化」に注目する。

同じ場所でも、「時間帯」、「天候」、「季節」によって、まちの表情は変わる。

### (ア) 「時間帯」による変化

例えば、草津川跡地公園 de 愛ひろばでは、

- 朝は、影が長く、花の表情が立体的に見える。風がなく静かなビオトープの水面は朝にこそ出会える。
- 昼は、影が短くなり、花の表情もビビッドになりコントラストが際立つ。
- 夕方は、光の量が変わっていき、照明に照らされた桜の表情も刻一刻と変わっていく。
- 光については、モノクロ写真で同じ風景を眺めると印象が変わるように、明暗の違いによって風景の感じ方は異なってくる。
- 時間が違うだけで、人との出会い方も変わってくる。

### (イ) 「天候」による変化

- 晴れた日は、新緑の桜の葉は美しく見える。花が咲いた桜も晴れた日は、青空とのコ

ントラストが際立つ。

- 曇りの日は、桜の花はくすんだように見えるが、アップで見ると影ができないので、曇りならではの柔らかい表情を感じられる。まちなかでも、家屋の影ができないので、ひとやものに柔らかさが出てくる。
- 雨の日は、木々が濡れてしっとりとした表情になる。水面も水滴が落ちて、独特の表情ができる。また、アジサイは、影ができない雨の日にこそしっとりとした表情を感じられる。
- 雪の日は、早朝1時間ほどの間だけ、ビオトープに氷がはり、雪が上に積もる。また、太陽の出る前に、木々に雪が積もり、照明に照らされて青っぽくなる。このような特別な表情は、雪の日のほんのひと時にのみ感じられる。まちの音も変わる。音が吸収されて、より静かな独特の音の空間が生まれる。

#### (ウ) 季節による変化

- 春は、土手のシロツメクサに冬を越したアゲハチョウが飛んでくる。蝶の種類によって、好む木が異なるので、蝶を見ることで、どのような木々が植わっているか分かる。
- 夏は、色彩鮮やかに公園の表情が楽しめる。噴水やビオトープで遊ぶ子供たちが増え、夏ならではの光景に出会える。
- 秋は、桜が紅葉し、ジョギングなどをしていると、落ち葉がたくさん重なっていることに気が付く。また、アゲハチョウは4月の終わりごろから10月の半ばまで楽しめ、モンシロチョウは2月の終わりから12月の初めまで飛んでいる。
- 冬は、木々が葉を落としているが、日の出前であれば、うっすらと雪がついた表情が楽しめる。

イ. 「まちを知るヒント」として、次に「自分の興味のあるもの」に注目する。

興味のあるものから、まちを眺めることで新しい発見がある。

- 食に興味のある人:  
まちにできた新しいお店などにいち早く気が付く。  
まち歩きでも、香りに敏感になり、五感を使ってまちを楽しめる。
- ガーデニングに興味のある人:  
公園にある花と自分の庭にある花の種類や育ち方の違いに注目する。
- 建物や路地に興味のある人:  
昔のまちどのような風景だったのかということに着目したり、人が住んでいる息遣いに敏感になったりする。
- 蝶に興味を持っている人:  
飛ぶ蝶を見ながら、公園を巡る楽しみがある。

#### ウ. SNS 等での情報発信

- 情報発信においては、一つのテーマ（料理や花など）をもって投稿することが重要。そのことにより、同じ趣味の仲間とつながっていく。
- SNS だけでは十分ではなく、SNS から実際のアクションに結びつける必要がある。そのためには、リアルな知り合いからの「口コミ」が重要になってくる。

#### (3) 草津市広報課より取組の紹介

- ホームページのほか、広報誌、SNS など、様々な媒体を通じて、色々な角度から情報発信をしている。
- 新型コロナウイルスの影響でホームページのアクセスがアップしているが、場面、場面に応じてツールの使い分けが大切。
- 「写すんです草津」は、一般の方々が投稿した写真を掲載しており、年に1度、「広報くさつ」の背表紙でも紹介している。
- 行政は堅いイメージになりがちであるが、ご当地ゆるキャラ「たび丸」のLINE スタンプや定期出演、YouTube での活動報告も行っている。
- YouTube では、その他に教育委員会が学校の授業風景などを発信している。
- 折々の情報発信を心掛け、需要と供給に沿った内容をこれからも発信する。

#### (4) 意見交換

参加者それぞれが「興味のあるもの」から、自分たちのまちを見たときに「気付いたこと」を発表し、他者に伝える。多様な他者の視点を知ることで、まちの見方を広げる。



- 東山道公園と円形分水工:  
南草津駅前の空間が魅力的。草津のガーデニングサークルの方が大事に育てており、季節ごとの花が咲いている。また、幼児が歩いている風景に出会うと、心がほっこりする。琵琶湖の水を農業用水と水道水に分けている施設、円形分水工が駅前に残されていることもすごいと思った。このように新しいものと古いものが共存していることが魅力的である。

- サイクルラック:  
趣味がロードバイク。琵琶湖のまわりにはサイクルラックをよく見かけるが、まちなかで発見すると、感動する。どのような人を巻き込みたいのかが伝わってくるので、今度、ここに寄ってみようと感じる。
- お店:  
本陣の辺りにある個人で商いされているお店はいつまでも残してほしい。スーパーも便利でよいが、スーパーにはない温かみがあり、とても魅力がある。
- 商店街:  
いつもは自転車で通り抜けるだけの商店街だったが、「草津バル」というイベントに参加して、こんなにたくさんの魅力的なお店があるのかと感じた。貴重な体験だった。
- 古い町並み:  
滋賀県では近江八幡や彦根、長浜の古い統一された町並みが美しいと思っていたが、地元も草津にも宿本陣の周りや酒蔵など、改めてみると、美しい景観が残されていることに気付いた。
- 家、建物、マンション:  
かわいいおうちや素敵なマンションが最近、たくさん建っている。通勤の途中や買い物に行く道など、楽しく見ながら歩いている。
- 花や庭先の植木:  
南草津駅から職場まで歩く途中に植えられている花々を見て四季を感じている。自然を大事にしながら、発展してほしい。
- 花壇:  
南部氏より蝶の話聞いたことで、草津川跡地公園の花壇で蝶を意識して見るようにしたところ、普段見ている景色が異なってくることを実際に体験した。また、駅のロータリーの花壇は見通しを考慮しているなど、意識することで見えてくるものが違ってくる。
- 昆虫:  
公園でどの花にどんな虫が来ているかを見ている。また、虫が来ると鳥が来る。そういった自然のサイクルも公園で感じることができる。

- 山の景色と雲:  
家から山の景色が見えるが、毎日異なる。光も違ってくる。心の持ちようによっても変わってくる。
- まちに暮らす人:  
散歩が好きなので、川べりを散歩する。京都の鴨川ではたくさんの方が利用しているが地元の広島は7本の川があるにもかかわらず、あまり人に利用されていない。南草津でも池(水路)があるが誰もいない。そのまちに暮らす人のメンタリティによって、まちの在り方や活用の仕方が変わってくる。
- イベント:  
新型コロナウイルスの関係で、消えゆくイベント。これまで、イベントの準備から、本番を迎えるまで、そして、本番の様子などを情報発信することに一番関心を持っていたが、それができなくなった。このようなことは初めての経験だが、イベントがなくなって、改めて、いかに大切なものだったかを思い知った。再開したら、情報を届けていきたい。
- 10年後になくなったり、変わったりしてしまいそうな「場所」、「もの」、「こと」:  
陣の辺りにある昔の草津川も今は公園になっている。10年でなくなったり、大きく変わったりしている場所やものが、まちにはたくさんある。また、ものだけでなく、祭りなどの「こと」もなくなっていくものがある。もしかしたら、今が最後かもしれない、という目で見ると、「場所」、「もの」、「こと」がいとおしくなる。
- 再発見:  
新しいものと古いもの、新旧で発見がある。草津では本陣など古いもののほかに、新しいものもできていく。日々、まちの発展を意識している。

## 5. 主な質疑応答

(1) Q: 撮影は日を決めて行っているか？

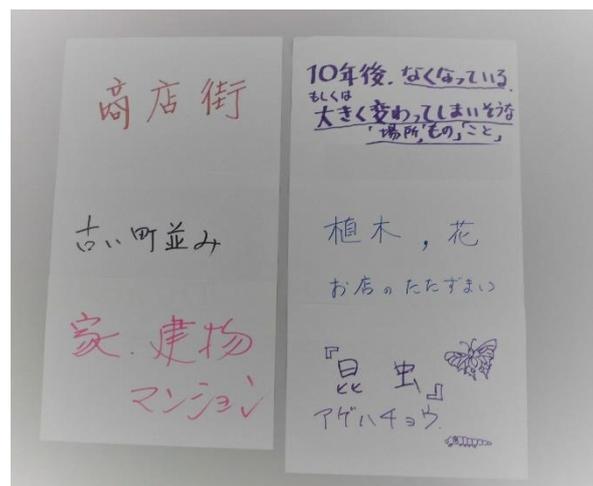
A: この日の、この時間ということは決めていない。草津川跡地公園で市民活動を行っているので、最低でも2週間に1度は撮影に行っている。時間帯は、日の出から昼までが多い。イベントが多くなれば、毎週行くことになる。近くに寄れば、撮影するようにしている。

(2) Q: 撮影した画像の管理方法について、どのように工夫しているか？

A: デジタルカメラやスマートフォンなどで撮り溜めた画像は膨大な数（年間数万枚）になるので、管理は難しい。容量は1年間で1テラ以上。フォルダ名は撮影した場所の名前（英語・ローマ字で）+日付（年月日）を表記。撮影した場所ごとにフォルダで管理したほうが分かりやすい。

## 6. まとめ

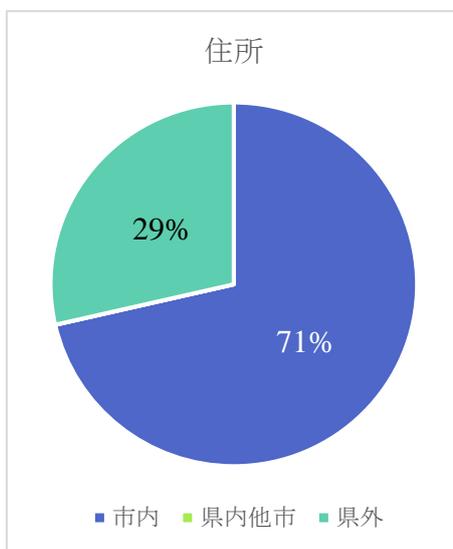
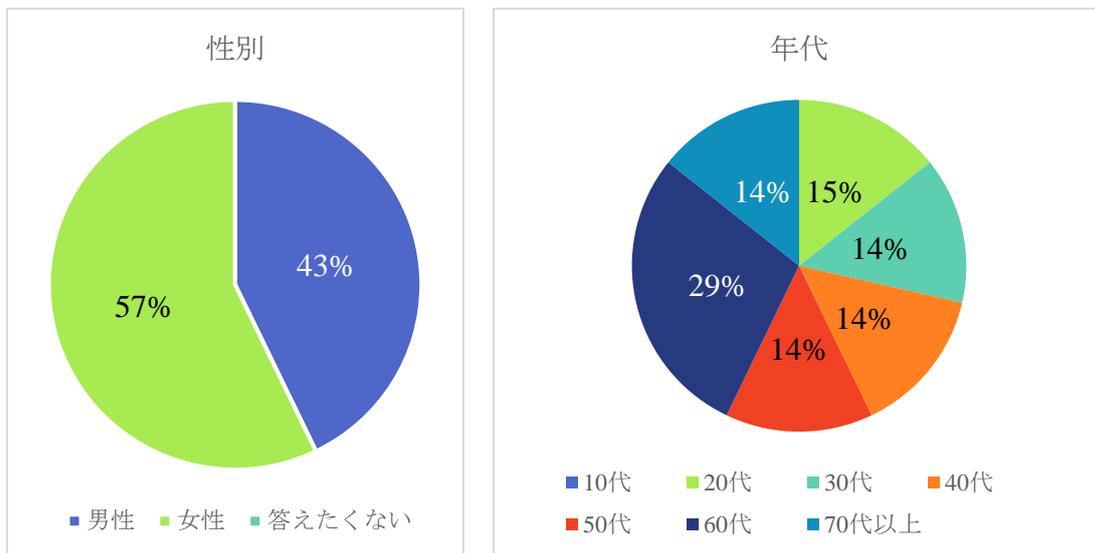
- 「アーバンデザイン」という言葉だけを聞くと、「難しい」というイメージや「自分とは関係ない」という考えを抱きがちである。
- しかし、まちに住んでいる一人一人は、日常生活の中で、アーバンデザインの源となる、まちに対する意識を潜在的に持っている。
- その意識を顕在化させるため、例えば、まちの風景の変化や自らが興味のあるものを通して、まちを見つめなおすことが重要となる。
- 新たな視点から、自分のまちがどのようになっているのかを知り、考えを深めることで、まちに対する関心が増し、アーバンデザインへの理解も深まっていく。
- また、自分の興味のある SNS を見て、まちやアーバンデザインへの理解をさらに深めたり、自ら情報発信をしたりすることも大事である。
- さらに、いろいろな視点を持っている人々との意見交換や交流を通して、アーバンデザインに対する多角的な視点を持てるようになっていく。



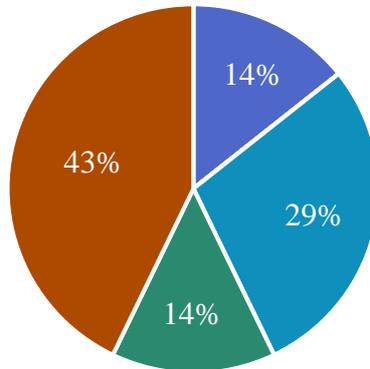
## 7. アンケートまとめ

### (1) 参加者属性

参加者 11 名のうち、アンケートに回答いただいた方は 7 名、回答率は 64% だった。

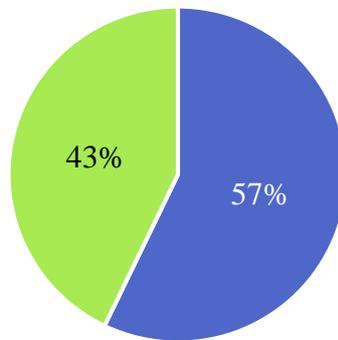


### 職業



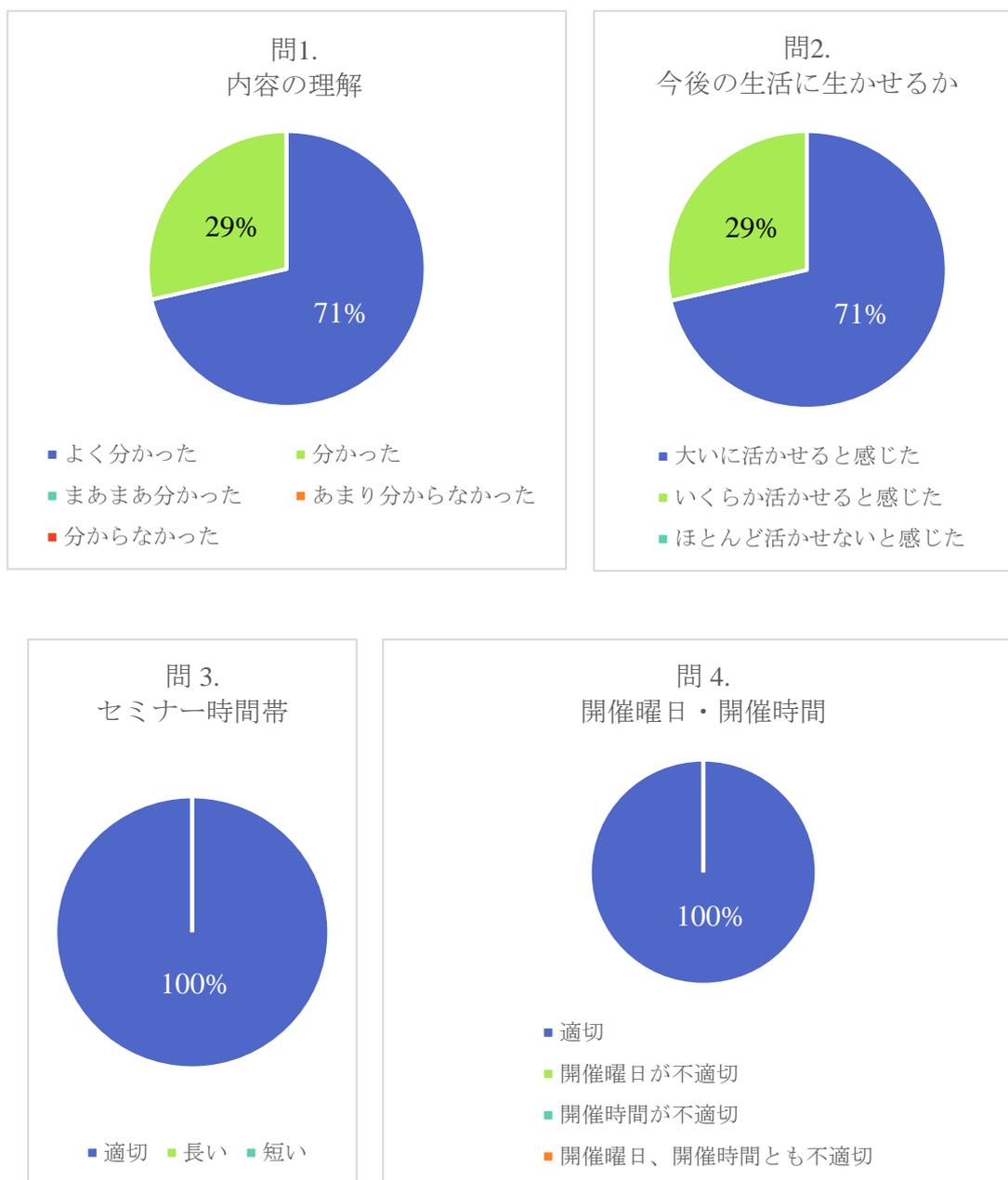
- 学生 - 市内
- 学生 - 県内
- 学生 - 県外
- 大学関係者 - 市内
- 大学関係者 - 県内
- 大学関係者 - 県外
- 会社員（自営業含む） - 市内
- 会社員（自営業含む） - 県内
- 会社員（自営業含む） - 県外
- その他

### 参加方法



- オンライン (Zoom)
- UDCBKで視聴

(2) 内容について



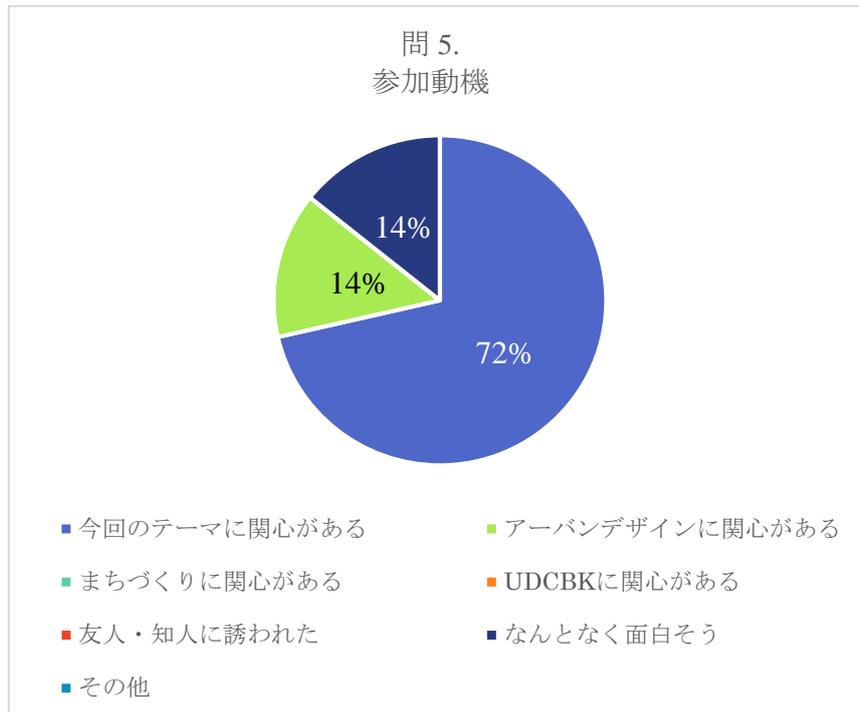
【自由記入欄回答】

問3. 時間はどうでしたか。

回答なし

問4. 開催曜日、開催時間は適切でしたか。

回答なし



【自由記入欄回答】

問 6. それぞれに関心のあるテーマについて御自由に記載ください。

- まちづくり 協働 産学連携 防災 (50代女性)
- 不動産開発やエリアマネジメント (20代男性)
- 交通、観光、名物(商業)。(40代女性)
- 今回のように、身近なまちを考える企画、自然を考える企画が参加しやすいなと思います。(60代男性)

【自由記入欄回答】

問 7. 今回、印象に残ったこととその理由をお聞かせください。

- 日常の景色に変化について写真を用いて説明していただけたので、非常にわかりやすかったです。特に曇りの日について、影が薄いことを活かせるというお話は参考になりました。情報発信に役立つというだけでなく、対人のコミュニケーションにも活きるような内容だったと思います。(20代男性)
- コロナの自粛ムードを逆手にとって、だからこそ出来る日常、地域、自然を愛することの大切さに気づかせて頂きました。ありがとうございます。参加者の皆様の視点をお聞き出来たのも有意義でした。一般市民の方、企業の方のお話もお聞きしたいと思います。(50代女性)

- オンラインでの参加が可能なセミナーでしたので、オンラインで参加された方が、ご自分でこれまでに撮影された草津の素敵どころ、風景、光景等の紹介をされる時間があればよかったかなと思いました。ただそうするともう少し時間が必要かもしれませんが。もっともオンラインでの参加でなくても、会場に来られて参加される人でも写真を持ってきてもらう、ということは考えられますが。(60代男性)
- ○○を変えてみると、・・・の視点が参考になりました。(40代女性)